

2007 年度統計関連学会連合大会（神戸大会）のプログラム企画について（第三報）

連合大会企画委員会委員長

狩野 裕（大阪大学）

企画委員会からの案内も第三報となりこれが最終です。この案内が届くころには大会プログラムの大枠が仕上がっていることと思います。大会の詳細については、本記事と別紙の大会案内、そして、連合大会の Web ページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

をご覧ください。

大会プログラムの編成については基本的に従来の手続きに倣いましたが、一点大きな変更があります。それは、今年度プログラム冊子の作成を取り止めたことです。代替措置を講じてはいますが、学会員の皆様には不便をお掛けすることがあろうかと存じます。どうかご理解をいただけますようお願い申し上げます。本件につきましては本案内の最後に経緯等を説明しています。

正規のプログラムは連合大会の Web ページで公開されるものです。Web ページには、Web 上で見やすい html 版と印刷に便利な PDF 版を用意し、html 版は 7 月 20 日頃に公開予定です。プログラム冊子作成取り止めの代替措置として、大会参加に必要な情報をコンパクトにまとめた大会案内の PDF ファイルを用意しています。学会によっては、これをメイリングリストで配布したり、印刷して会員に送付したりするところもあるようです。参加費、プログラムテーブルや会場案内などの詳細は大会案内をご覧ください。

1. 企画セッション一覧

- 1) アレイデータ解析周辺にみる新しい統計的視点 総括と今後に向けて（7日午前）
- 2) 統計科学とマーケティング（7日午後）
- 3) サイコメトリックスにおける多変量データ解析研究のゆくえ（7日午後）
- 4) 統計教育におけるカリキュラムと教材、評価システムの国際比較 国際標準化に向けて（7日午後）
- 5) 応用統計学会 学会賞受賞者講演（8日午前）
- 6) 政府統計改革の現状と課題（8日午前）
- 7) 日本統計学会会長講演（8日午後）
- 8) 日本計量生物学会 奨励賞受賞者講演（8日午後）
- 9) 高頻度データを用いた計量ファイナンス分析（8日午後）
- 10) データの可視化と計算機・Web 技術（8日午後）
- 11) リモートセンシング技術の展開と統計数理 - 応用統計学会・日本リモートセンシング学会共同企画（8日午後）
- 12) 「回転」研究の新「展開」（9日午前）
- 13) 水産生物資源の解析と統計モデリング（9日午前）

註：企画セッションは企画委員会が承認したオーガナイザによって組織されており、同セッションでの講演は依頼（招待）講演です。

2. コンペティション

今年度も、研究活動を開始して日の浅い会員のより質の高い研究発表の奨励を目的としてコンペティションを実施します。

評価基準：研究内容のみならず、発表者各自が十分に工夫をしていかにうまく内容を伝えられたか、質問に的確に答えられたかといった発表の仕方も含め、全体として素晴らしいプレゼンテーションになっているかどうかを評価の対象とします。

審査方法：大会におけるコンペティション講演の審査は、コンペティション講演セッションの出席者による記名投票によっておこないます。セッションの参加者すべてに投票資格がありますので、本企画の趣旨をご理解の上、奮ってご投票ください。A, B, Cの3段階で各報告者を評価していただきます。ただし、講演者ならびに共著者はその講演への投票は出来ません。無記名投票は無効です。投票結果に基づき、企画委員会で選考します。最優秀報告者1名、優秀報告者(原則として)2名を選考し、大会の閉会式(表彰式)にて受賞者を発表して表彰しますので、ぜひこちらにもご出席ください。

3. チュートリアルセッション

チュートリアルセッションでは3つのテーマを用意しました。「テーマ1」または「テーマ2とテーマ3」のどちらかをお選びいただけます。

日 時：2007年9月6日(木)午後(12:30より受付開始)

会 場：テーマ1はB会場、テーマ2と3はF会場

テーマ1： ベイズ統計とベイジアンネットワーク

講演時間：13:00 - 18:10

オーガナイザ：繁樹算男(東京大学)

講演タイトルと講師：

第1部 ベイズ統計の基本とベイジアンネットワークの導入 [繁樹算男(東京大学)]

第2部 ベイジアンネットワークのモデル構築 [植野真臣(電気通信大学)]

第3部 ベイジアンネットワークによる問題解決 [本村陽一(産業技術総合研究所)]

概 要

ベイズ的な考え方は、素朴であり、日常的思惟の自然な表現であり、分かりやすいものである。また、世の中の現象を、いくつかの出来事のネットワークのつながりとして表現することも自然であると考え。この二つが結びついたものがベイジアンネットワークモデルである。今回のワークショップは、ベイズの考え方に触れたことのない方、宗教的であると毛嫌いしている方(Thomas Bayesは牧師であった)、数理的な統計学と自分の抱えている問題とに乖離を感じている方などを念頭に、ベイズの基本的な考え方から出発し、現実の問題解決の手法のマスターにいたるコースである。統計学の教科書の一章を割いて紹介されるベイズ統計学の概要や、あるいは、ベイズ統計学に関するテキストの理論的説明の刺身のつまのような扱いとは一味違うコースの展開を考えている。

テーマ2： 大規模データ解析の現状と問題点

講演時間： 13:00 - 15:30

オーガナイザ： 樋口知之（統計数理研究所）

講師： 樋口知之（統計数理研究所）

概要

複雑なシステムが不断に生み出す大量のデータの解析処理、そこからの有用な情報の自動的な抽出、つまり計算機による知識獲得の重要性が叫ばれて久しいが、統計科学がこの要求に満足に答えてきたのか、特にデータマイニングや機械学習等の他隣接研究領域と比較して十分であったのかは自省すべき時期にきている。本チュートリアルでは、統計科学の研究者が大量データの解析にあたって障害となる、欠損値や異常値の取り扱い等の前処理技術から、ベイジアンモデリングを利用した異種情報の統合手法までを、講演者の多数の実例経験をおりませて紹介する。人工衛星時系列データ、GPS データ、POS データ、マイクロアレイデータ等の解析例を示す中で、直面した困難をいかに克服していったかを解説する予定である。

テーマ3： 生存時間解析における競合危険モデル入門

講演時間： 16:00 - 18:30

オーガナイザ： 上坂浩之（日本イーライリリー）

講師： 西川正子（国立保健医療科学院）

概要

ある個体あるいは対象を経時的に観察し、注目している事象が発生するまでの時間あるいは、経時的な累積発生割合を推定する問題は、医療において特定の原因による死亡や有害事象の発生等を扱う生存時間解析、ある製品の寿命に関する信頼性研究などをはじめとして、疫学・薬剤疫学、公衆衛生、人口問題、保険統計、生物・医学研究、経済学などの様々な領域で発生する。そのような場面では注目している事象以外の原因、すなわち競合危険によるセンサリングの発生が問題になる。医学・生物学データの解析ではしばしば競合危険因子間の独立性を仮定した解析が見られるが、この仮定は多くの場合データから確認できない。また、生存関数の推定ではKaplan-Meier 推定量がよく用いられるが、競合危険因子が存在する場合、Kaplan-Meier 推定量にはバイアスが入ることが知られており、また、この点を指摘する論文も見られる。前者に関しては、最近、競合危険因子の独立性を仮定しない解析法が提案されている。後者においては、競合危険モデルによる解析を適用すべきである。

本セミナーでは、様々な場面で適用される競合危険モデルの最近の発展を念頭において、医療における医薬品やその他の治療法または予防法の有効性・安全性評価の場面を中心として、競合危険を考慮すべき状況、統計的モデルとその推測、ならびに具体的な事例の紹介など、競合危険モデルに基づく生存時間解析の考え方と統計的推測理論を解説する。

補足：テーマ2と3につきましては、どちらか片方のみを受講することもできます。

4. 市民講演会のご案内

市民講演会は下記のテーマについて、お二人の方に講演して頂きます。参加費は無料です。なお、市民講演会はEUインスティテュート関西 (<http://euij-kansai.jp/>) と共催です。

日 時： 2007年9月6日(木) 17:00～19:00

会 場： 神戸大学 経済・経営学部本館 102号室

テーマ： 「統計データから見たEUと日本経済・関西経済について」

講演者： 飯塚信夫（日本経済研究センター・研究統括部担当部長兼主任研究員）
久保広正（神戸大学大学院経済学研究科・教授）

概 要

飯塚先生の講演要旨より 『2度の踊り場局面を乗り越え、日本経済は戦後最長の景気拡大を続けています。こうした長期間の景気回復によって、日本経済は変貌を遂げたのか。様々な統計データを用いながら、この講演で皆さんと検証をしていきます。』

久保先生の講演要旨より 『こうした拡大EUと日本経済は、密接な経済関係を築きつつあります。特に投資交流は目覚ましいものがあります。日本に流入する対内直接投資の大半はEU企業によるものですし、対外直接投資に占めるEUのシェアは常に上位に位置しています。果たして、何故にEU企業にとって日本市場は魅力的なのでしょう。逆に、何故に日本企業にとって、EUは魅力的なのでしょう。』

詳細は以下のURLをご覧ください。

http://www.jfssa.jp/taikai/2007/program/public_lecture.pdf

5. 最後に

プログラム冊子の作成取り止めの経緯について簡単に説明いたします。その理由は、大会の影武者たる企画委員会、実行委員会、事務局の負担減と予算の削減です。神戸大会は講演者数300、参加者数800を見込みます。この規模の大会を研究者のボランティアベースで運営するのはかなり難しいと言わざるを得ません。また、大学や研究所での本務は年々忙しくなり、学会等の公的な仕事へ割くことのできる時間は限られています。このような状況下で、企画委員会の仕事では、大会プログラムの企画・立案・編成に集中できるよう仕事内容を見直す必要性を感じました。一方で、情報技術の発達によって多くの学会員の方々はWebから情報を得るようになってきました。学術雑誌も電子ジャーナルが主流となりました。以上を鑑み、大会プログラムに関しては冊子体の重要度は高くないのではないかと考えました。これを廃止することで、プログラム冊子が遅くとも7月中には会員へ届かなければならないという厳しい納品期日から開放されることとなり、そして、製版・印刷・郵送の費用が削減されます。以上のことを連合大会運営委員会と各主催学会にご理解いただき、プログラム冊子の作成を取り止めることとしました。報告集を廃止してCD-ROMへ一本化することも検討されましたが、こちらは将来の課題としました。

皆様方のご協力により今大会も充実したプログラムとなっています。実行委員会によると懇親会の準備にも力が入っているようです。異国情緒豊かな神戸大会で多くの方と出会えまことを期待しております。

以上